

Y07b 中高生に向けた宇宙線探究活動「探Q」の現況報告

榎本晴日 (東工大), 秋山翔希, 遠藤心汰朗, 喜多亮介, 河野理夏子, 齋藤隆太, 佐々木真奈香, 帆足莉子, 中川鈴彩, 能勢千鶴, 丸田京華 (東北大), 大澤真優乃 (早稲田大), 田中香津生 (Paul Scherrer Institute)

中高生の科学探究活動は広く行われているものの、宇宙線に関する探究活動は殆ど行われていないのが現状だ。なぜなら一般に宇宙線の研究には高価で大型な装置が必要とされるが、中高生にとって装置にアクセスすることは難しいからである。

宇宙線探究活動「探Q」[1]では、中高生が宇宙線の探究を気軽に行うことで宇宙への好奇心を高めることを願い、2019年より活動をスタートした。比較的簡単に扱うことの出来る安価な宇宙線検出器を開発・配布し、更に研究者と大学生が中高生の探究活動のサポートを行うことで、学会のジュニアセッション等で発表を行うまでの成果を得ることを可能にしている。

covid-19の感染症拡大で中高生の課外活動が制限される中であっても、探Qではオンラインツールを活用したサポートを行ってきたことで、むしろ活動を全国展開することに成功した。現在は28校、100名以上の中高生がチーム・個人・部活動の各々の単位で、様々なテーマを掲げて探究活動を行なっている。

本講演では中高生主体のオンライン共同研究の構築について、いくつかの事例を交えて報告する。

[1] <https://accel-kitchen.com/tanq/>